

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.40
東海村立白方
小学校
2026.2.13
児童数452人

建国記念の日が過ぎ2月も中旬を迎えました。1月末から2月上旬にかけてインフルエンザB型の罹患者数が増加傾向にありましたが、予防対策にご協力いただき、次第に罹患者数が減ってきております。引き続き、小まめなうがい、手洗い、感染リスクの高い場所でのマスクの着用、体調が優れない場合の早めの休養をお願いできればと存じます。

さて、2月も後半に入り学習のまとめの時期となっています。今の学年の学習内容をしっかりと身に付けて進級、進学できるよう、復習を繰り返し行い、今年度学習したことを、次の学年の学習で生かすことができるよう一人一人の支援に力を尽くして参ります。

給食の始まり

～ おにぎりからはじまった給食 ～
1月24日～30日は「全国学校給食週間」でした。学校給食は、明治22年に始まって以来、各地に広がっていききましたが、戦争の影響などによって中断されました。戦後、食糧難により児童の栄養状態の悪化したことから、学校給食の再開を求める声が高まるようになり、昭和21年6月に米国のLARA (Licensed Agencies for Relief in Asia: アジア救済公認団体) から、給食用物資の寄贈を受けて、昭和22年1月から学校給食が再開されました。昭和21年12月24日に、東京都内の小学校でLARAからの給食用物資の贈呈式が行われ、それ以来、この日を学校給食感謝の日と決めました。昭和25年度から冬季休業と重ならない1月24日から1月30日までの1週間を「学校給食週間」としました。寄贈されたものが大量の脱脂粉乳と小麦粉であったことから、主食は「コッペパン」が中心でした。昭和51年に学校給食法施行規則の中に「パン又は米飯、ミルク及びおかず」を「完全給食」と呼ぶことが明記され米飯給食が実施されるようになっていきました。その後、主食の米は五目ご飯、ワカメご飯、チャーハンなど、豊富なバリエーションで提供されるようになってきています。また、パンは、長くコッペパン、食パンが提供されていましたが、今では、揚げパン（きなこ、ココア、うぐいす、2色など）が提供され人気があります。さらに、麺類はソフト麺、スパゲッティ、焼きそばが提供され人気があります。



オープンウィンタースクール ～ 部活動の見学・体験を行いました。～

1月28日(水)の午後に東海中学校で開催されたオープンウィンタースクールに6年生が参加しました。



武道場での開会行事ではオープンウィンタースクールの準備を進めてくださった中学校1年の実行委委員長が「ようこそ東海中学校へ・・・今日はじっくりと授業の様子や興味がある部活動を見て、中学校がどんな場所か知っていただければ・・・」といった挨拶を受けました。その後、校長先生から東海村より東海中学校の方が歴史が古く、「東海中」という名前は、江戸時代の学者の方の詩「卓立する東海の浜」といった一節に由来するとの話をうかがいました。

その後、体育館や音楽室、1年生の教室などを回り、授業の様子を見学させていただきました。小学校より広い体育館、79段もある広々とした中央階段、4階にある1年生の教室と中学校の雰囲気を知ることができました。次に武道場に戻り、中学校の行事や校外学習の紹介を受けました。迫力ある体育祭、その後段の部として開催される縦割り団で行う応援祭、卓立祭など、自分たちでやり方を考え、創り出す数々の行事の様子を教えてくださいました。さらに1年生のスキー宿泊学習、2年生の東京遠足、3年生の修学旅行など、仲間との絆を深め見聞を広げる校外学習の様子を知り、中学校への期待が高まった様子でした。

最後は、自分の興味がある部活動の見学・体験をさせていただきました。中学生と共に練習の一部に参加させていただき、緊張はしましたが、体験後の表情や言葉からは、体験から得た爽快感、充実感が伝わってきました。

